新宮紀宝道路調査ニュース

うどの No.1 2018. 11

三重県埋蔵文化財センター
〒515-0325 多気郡明和町竹川 503
TEL 0596(52)1732 FAX 0596(52)7035
E-mail：maibun@pref.mie.jp
http://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/

鵜殿西遺跡（第2次）発掘調査

掘立柱建物１（西から）

鵜殿西遺跡は、熊野川河口部の北岸にある砂堆（さたい）上（標高約５ｍ）に立地する遺跡です。付近には、熊野参詣道の一つである伊勢路が通り、熊野川にも面することから陸上及び河川交通の要所でした。

鵜殿西遺跡の西側の山には、室町時代頃に鵜殿周辺を治めていたとされる鵜殿氏の城があり、遺跡や鵜殿の町並みが見渡せます。また、城跡の西にある貴祢谷社（きねがたにしゃ）の境内には、室町時代前期の宝篋印塔（ほうきょういんとう）やたくさんの五輪塔が並んでいます。さらに、「鵜殿荘（うどのしょう）」と呼ばれる熊野新宮領の荘園も置かれていました。

江戸時代以降の鵜殿は、紀州徳川家の附家老（つけがろう）であった水野氏の新宮領であり、熊野で産出された木材や薪炭を大坂や江戸へ運んだ廻船業で栄えていました。

今回の調査地も元々は廻船問屋を営んだ邸宅があった場所で、当時の生活をうかがえる陶磁器や井戸などが見つかっています。

調査で見つかった主な遺物

●縄文土器

縄文時代後期頃（約5,000年前）の土器が見つかりました。

紀宝町内では、成川小学校遺跡などでも確認されています。

●土錘（どすい）

網のオモリや手工業に使われたとされます。紐を通すための孔（あな）があり、管状になっているのが特徴的です。

●青磁（せいじ）

鎌倉時代頃に中国から輸入した磁器です。当時の日本では磁器を生産する技術が無く、大陸から輸入していました。

●磁器皿・碗・蓋（肥前・伊万里）

江戸時代後期（約250年前）に現在でも磁器の生産地として有名な佐賀県の伊万里で焼かれた食器類です。この他にも、多種多様な食器類などが見つかっています。

●陶器碗（肥前・鍋島）

江戸時代後期頃に生産された碗です。当時、人気の高かった京焼を模しています。

碗の外面底部には、「清水」と線刻されています。清水は、清水寺のある一帯の地名です。

周辺の主要遺跡地図

鵜殿西遺跡（第２次）発掘調査

調査面積：851 ㎡
調査期間：平成30年９月20日
～12月10日（予定）
調査委託：国土交通省近畿地方整備局
紀南河川国道事務所
調査担当：三重県埋蔵文化財センター

平成30年11月17日刊行

鵜殿西遺跡第２次調査区平面図（S=1:200）

掘立柱建物

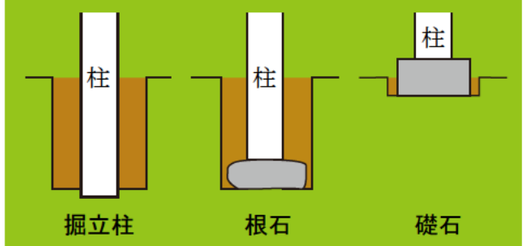
▲掘立柱建物１（西から）

▲掘立柱建物３（東から）

鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物が３棟見つかりました。いずれも、建物内部に柱を立てる総柱建物です。

掘立柱建物１は、３間×３間（東西6.3m×南北6.3m）で、掘立柱建物２は、２間×３間（東西4.2m×南北5.4m）と小さくなります。

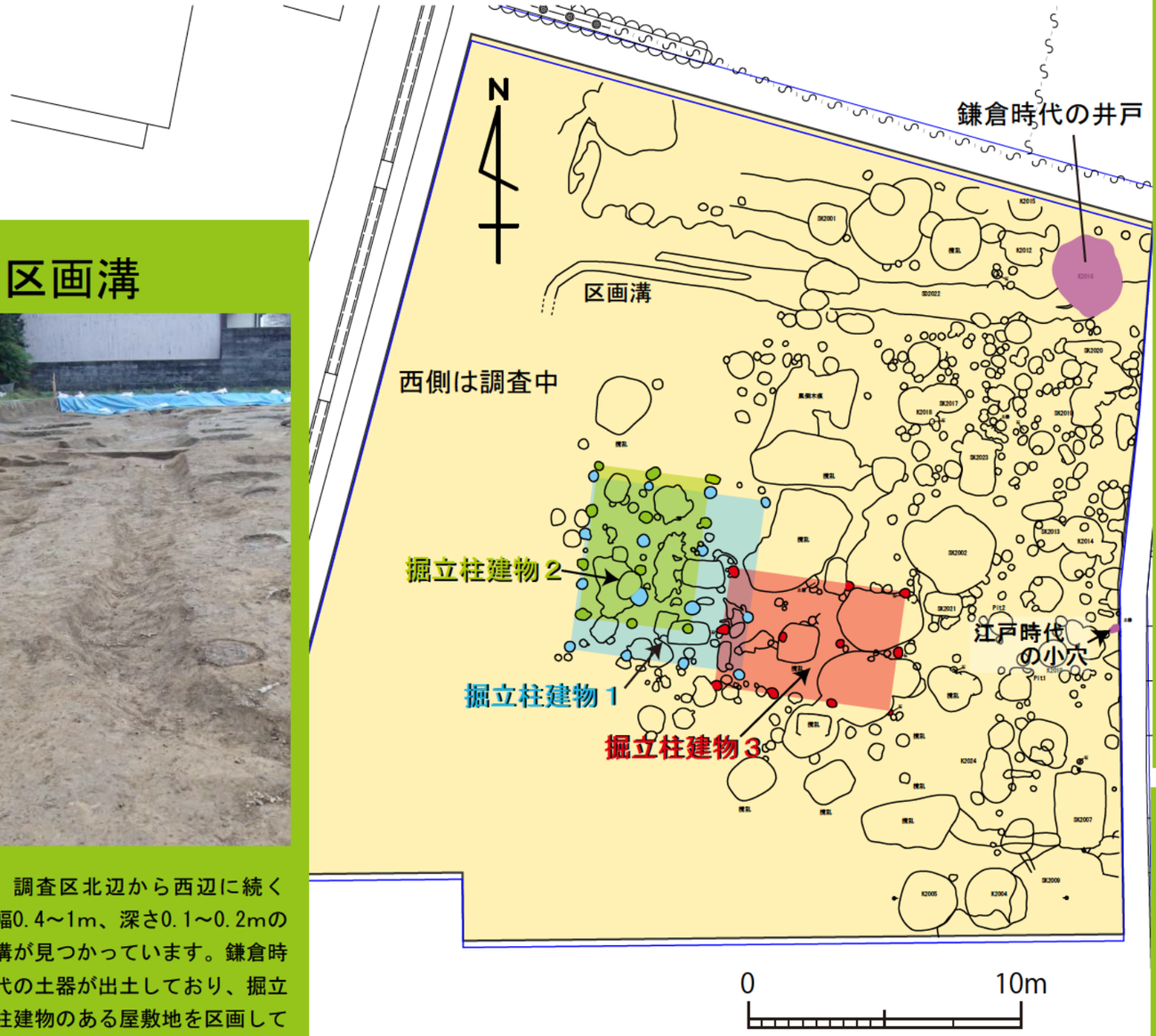
掘立柱建物３には、建物の重みで沈下を防ぐために柱の下に置いた根石が見つかっています。根石を持たない掘立柱建物より工法的に新しいと考えられます。



柱穴構造の模式図

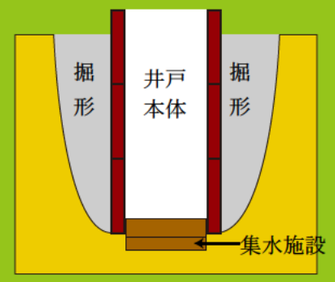
区画溝

調査区北辺から西辺に続く幅0.4～1m、深さ0.1～0.2mの溝が見つかっています。鎌倉時代の土器が出土しており、掘立柱建物のある屋敷地を区画していたと考えられます。



井戸

鎌倉時代の井戸が１基見つかりました。円形に掘られ、直径が約３mになります。井戸からは、多量の石や平安時代の須恵器、鎌倉時代の青磁などが出土しています。板などの井戸枠があったと考えられますが、見つかっていません。



▲井戸模式図

完全な形の皿が出土！

完全な形で残っている江戸時代の陶器皿３枚が小穴から出土しました。完全な形で陶器や土器が出土することは珍しいです。陶器の皿は保管もしくは儀礼等の目的で意図的に置いた可能性が考えられます。

発掘調査担当者からのコメント

今回の発掘調査では、鎌倉時代から室町時代にかけての溝で囲まれたと考えられる屋敷地を確認しました。屋敷地内には、当時の人が住んでいたと考えられる掘立柱建物の他、皿や椀などの食器類も確認されました。

また、室町時代の「鵜殿荘」以前に、鎌倉時代の生活の跡を確認したことが成果の一つとしてあげられます。今後は、今回の発掘調査で得られた成果を十分に検討し、鵜殿西遺跡の内容をさらに明らかにしていく予定です。